

教員免許状更新講習実践報告

—選択科目「食教育を考える」—

The nutrition teacher's license certify lecture practice report

— The optional subject [Dietary education] —

小板 由美子

Yumiko Koita

Abstract

The teacher's license update system was established in 2007. The aim of the teacher's license update system is to improve broaden one's knowledge. Almost all dietary education in junior high school is taught during the dietary life classes of the home economics education. Also they teach children about nutrition for subjects. Time of school lunch, the teacher should be teaching, even with other than it not only nutrition. In this report, it implements a questionnaire survey which was implemented at the teacher's certify lecture. In the future we think that Dietary education is necessary for teachers. Update lecture suggests that it was a meaningful time for them.

Key words : Teacher's license, Update lecture , Dietary education

I はじめに

教員免許更新制は2007年（平成19年）6月の改正教育職員免許法の成立により、2009年（平成21年）4月1日から導入された。その主な目的は「その時々で求められる教員として必要な資質能力が保持されるよう、定期的に最新の知識技能を身に付けることで、教員が自信と誇りを持って教壇に立ち、社会の尊敬と信頼を得ることを目指すもの」とされている¹⁾。対象者は普通免許状又は特別免許状を有する者で、現職教員（校長、副校長、教頭を含む。）、実習助手、寄宿舎指導員、学校栄養職員、養護職員等である。2009年に83校で実施が開始された更新講習も2015年には527校で実施されており、武蔵丘短期大学（以下「本学とする」）でも2009年より教員免許更新講習を実施してきた。本報告は平成27年度に本学が教員免許更新講習を実施した講習の選択科目「食教育を考える」を対象とした。

「食育」は食生活の多様化が見られる中、家庭、学校、地域が連携して実施していくことが望ましいとされている。小学校及び中学校では「食育基本法」の施行及び学習指導要領の改訂（2008年3月27日）において、学則に「学校における食育の推進」が盛り込まれたことにより「給食の時間」「総合的な学習の時間」を中心に「道徳」「保健体育」「技術・家庭」「理科」「社会」など各教科の枠を超え、様々な

角度から実施されている。文部科学省が目標としている「児童生徒が生涯にわたって生き生きとした生活を送ること」の基盤のひとつと考えられる「食べる」ことの大切さを学習するためには多方向からのアプローチが必要であり、効果的であるとされている。また、学校現場においてアレルギー事故の報告が聞かれることから、食（栄養）の知識を教員全体で共有する必要が考えられる。本報告は選択科目である「食教育を考える」の講習内容及び受講生にアンケートを実施した結果について報告する。今後の認定講習の内容検討に活かしたい。

II 講習内容及び調査方法

1. 「食教育を考える」講習日程

平成27年度の教員免許更新講習「食教育を考える」（以下「本講習とする」）は平成27年8月29日（土）に、本学2209教室において90分×4コマで開講した。

講習内容としては1コマ目～4コマ目まで講義を中心に開講した。免許状更新講習 事前アンケートにより比較的要望の多かった「最新の食育情報」「中高生向けのお弁当の献立」「すぐに活用できる実践的な内容」を踏まえ、グループワーク、簡単な実習、演習等を各講義の中に組み込んだ内容とした。本講習の講義概要を表1に示す。

表 1 更新講習の講義概要

講習	教員免許更新講習「食教育を考える」
講習日程	平成 27 年 8 月 29 日 (土) 9:20 ~ 16:30
講習内容 (講義中心)	<ul style="list-style-type: none"> ・食育とは何か ・食育の必要性 ・食育基本法について ・食文化と児童生徒の現状 ・「食に関する指導」の全体計画及び展開 ・早寝早起き朝ごはん ・学校給食の意義と役割 ・補食の選択力 ・個別指導 Ⅰ スポーツをする児童生徒への指導 (熱中症対策及び水分補給) Ⅱ アレルギー対応
試験	試験



図 1 ワークシート (食料自給率) ²⁾

2. 実習内容

本講習ではグループワークとして (各グループ 4 ~ 5 人) クイズ、スポーツドリンク作り、エピペントレーナーを使用しての演習を実施した。(表 2)

表 2 更新講習のグループワーク概要

講習	教員免許更新講習「食教育を考える」
講習日程	平成 27 年 8 月 29 日 (土)
講習内容 (演習中心)	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の食料自給率について (クイズ形式) ・スポーツドリンクを手作りしよう (実習及び試飲) ・スポーツドリンクと経口補水液を飲み比べる ・アレルギーを持つ児童生徒への指導 (エピペントレーナーを使用しての演習)

① 日本の食料自給率を当てよう

農林水産省が食育推進用にホームページで発表しているワークシートを利用して食料自給率を考える問題をグループごとに話し合い、その結果を発表した。(図 1)

② スポーツドリンクを手作りしよう

自宅で手軽に安価にできるスポーツドリンクをグループごとに作成し、試飲した。実習室への移動は時間的に難しかったため、事前にレシピに沿った材料を計量し、当日は調合するのみの作業とした。

また、スポーツドリンクと経口補水液の成分及び用途の違いを説明し、飲み比べを行った。

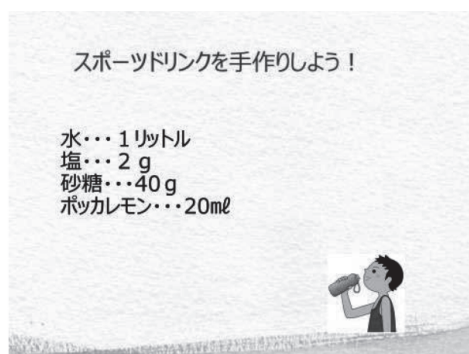


図 2 スポーツドリンクレシピ

③ エピペン練習用トレーナーの演習

食物及び蜂毒に起因するアナフィラキシー反応に対する補助治療剤「エピペン注射液」の投与練習用に用いる針、薬液を含まない「エピペン練習用トレーナー」を使用しての練習体験を実施した。受講者の中には「エピペン練習用トレーナー」の存在を知らなかったという方も多く、初めてトレーナーを手にした受講生が約半数であった。ハンドブックを提示して練習をおこなった。打つ箇所、角度、時間等

の確認をしながら2人1組で実施した。(写真1参照)



写真1 エピペン練習用トレーナー³⁾

3. 調査対象

対象は「平成27年度教員免許状更新講習」受講者のうち選択科目の「食教育を考える」を受講した21名とした。

4. 調査方法

更新講習の試験終了後、受講者にアンケート用紙を配布した。記入においては時間の制限は設けず実施した。また、講習受講者の意見が反映されるよう自由記述で実施した。

有効回答数は21名中21名で100%であった。

Ⅲ 結果

1. アンケート項目

1) 性別

「食教育を考える」を受講した21名の内女性の受講者は19名、男性2名であった。(図1参照)

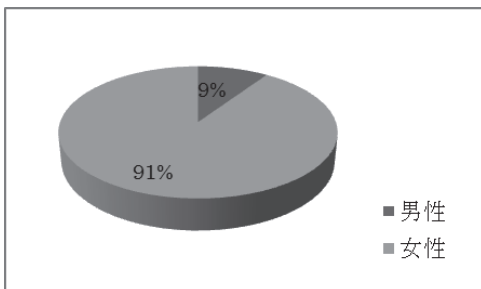


図3 受講者の男女比 (n=21)

2) 年齢

受講者の年齢は20代が17名、30代が3名、40代が4名、50代が1名であった。(図4参照)

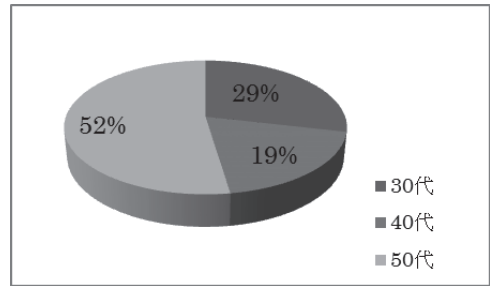


図4 受講者の年齢 (n=21)

3) 所属

受講生の現在の所属を図5に示した。小学校11名、中学校7名、中学高等学校、高等学校、特別支援学校がそれぞれ1名ずつであった。所属校で実際に教鞭をとっている専門科目については、「家庭科」「保健・体育」が若干多く全体の約1/3程度を占めていた。その他、「英語」「音楽」「社会」「栄養教諭」等々であった。

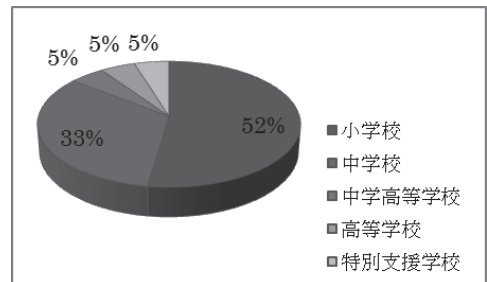


図5 受講者の所属 (n=21)

4) 食育実施の教科

所属校においてどのような食教育が実施されているかについては「給食の時間」「学級活動」に実施している学校がほとんどであった。また、各学期の始業式、運動会の練習時、行事が行われる機会に食育指導の時間が設けられることが多いとの回答であった。

5) 「食育を考える」を受講しての感想

本講義の受講感想について受講終了後に自由回答形式でアンケートを行った。内容については以下の通りであった。

- ・今回の講習で「食に関する知識」が増えた。
- ・食が運動や学力に通じることなど学校を核として

家庭・地域に広げていきたい。

- ・実習あり、情報交換あり、内容も充実していて楽しかった。
- ・今日の講義は大変勉強になった。学校に戻り、生徒達に活用していきたい。
- ・「食教育」について以前から興味のある分野だったので、受講することができて勉強になった。普段、学校での食に関する指導に悩んでいたのととてもいい機会になった。
- ・給食や家庭科、体育などの教科と連携して食教育をやっていこうと思う。
- ・栄養教諭としてとても興味深い内容の講義でした。小学校すべての授業に出ているので2学期からの授業に活用させたい。
- ・「食」については、関心はあるものの成分やその他わからないことが多く、苦手に思っていました。しかし、今日のお話を聞き、改めて「食」の重要性和食教育の必要性を学ぶことができ、とても有意義でした。
- ・スポーツドリンクの作り方やエビペンの使い方などの実習もあり楽しみながら受講できた。
- ・手作りスポーツドリンクは学校で実践したいです。
- ・食育は知育、徳育、体育の基礎。大変有意義な授業でした。
- ・食教育は、とても色々なこととつながりがあり、私達が生きていく上でこれからもっと勉強していかなければならないことだとわかりました。
- ・自分の学校にもどり、子ども達に「こうしてみよう」というイメージが湧きました。
- ・ワークシートや経口補水液の試飲など大変勉強になりました。
- ・アレルギーの危険性を考え、安全な学校生活を送ることができるように指導したい。
- ・お弁当や補食の工夫は授業で取り入れたいと思う。
- ・講習内容を現場で即実践したくなりました。
- ・熱中症の対応の仕方、水分の取り方、とても勉強になりました。
- ・個別に行う給食指導の「肥満」や「子どもの生活習慣病」についても興味があるので、そんな話も聞けるとよかった。

Ⅲ 考察

教員免許状更新講習、選択科目「食教育を考える」の受講者は比較的女性が多かった。また、年齢にお

いては20代～40代が中心であった。2005年に食育基本法が成立したことにより、小学校、中学校において各教科の教員が「食教育」に携わることが多くなってきていることは明らかである。その際、児童・生徒に「食教育」授業を行うには食に関する知識や情報が必須である。実際の学校現場において比較的「食教育」に携わることが多い「家庭科」「保健・体育」の教員を中心に「食教育」に興味をもつ受講生が選択科目「食教育を考える」を選択したと示唆される。このことは更新講習の事前アンケートの自由記述の回答でも顕著である。

文部科学省が発刊した「食に関する指導」においては、子どもたちが生涯にわたって生き生きとした生活を送ることの基盤は「食べる」ことの大切さを理解すること、そして主体的に「食」に関わっていくことでその能力は培われていくとある。更に、食育基本法の前文には「子どもたちが様々な経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する能力を習得することにより健全な心と身体を培い豊かな人間性をはぐくんでいく基盤となる」と明記されている。「食教育」は小学校、中学校において各教科と関連付けながら実施されている。なかでも、小学校、中学校合わせて9年間を通して実施される「給食の時間」にくり返し指導することが可能である。週5日9年間という長い時間を費やすことのできる教科は「給食の時間」に他ならない。その意味でも今後は家庭、地域、での「食教育」の知識習得は勿論、学校においても実践が期待される。その実践力が朝食をきちんと食べる事、無理なダイエットをしない事、食べ物を無駄にしない事、作ってくれた人に感謝をする事等につながることに考えると考えられる。また、自由記述の回答にもあるように食育は「学校」「教科」「家庭」「地域」との連携を有することによりその指導内容の充実が可能となるといえる。教育に携わる教員が「食教育」に関心を示し参加していくことは、今後、「食教育」が栄養教諭を中心に教員全体の共通理解として充実したものになると示唆された。

Ⅳ まとめ

教員免許状更新制が2009年（平成21年4月）に開始され、それに伴い各都道府県において更新講習が導入された。導入時83校で開始された更新講習も現在では47都道府県527校に増加して実施され

ている。平成 27 年 8 月 4 日（火）～8 月 8 日（土）、平成 27 年 8 月 25 日（火）～8 月 29 日（土）の日程で「平成 27 年度教員免許状更新講習」が武蔵丘短期大学において開講された。選択科目「食教育を考える」を受講した教員のほとんどが小学校、中学校の現職教員であり今後栄養教諭と共に「食教育」に携わることを希望していた。受講終了後にアンケート調査を実施した結果、講義内容について「とても参考になった」「今後の食教育に生かしたい」との意見が多かった。また、今回の更新講習では、講義の他、簡単な実習等をグループワークで受講する構成とした。結果、更新講習後、所属校において講義内容及びスポーツドリンク作成など比較的簡単に実践に生かすことができると考えられる。また、アンケート調査の結果及び実習中における受講生の率直な意見を今後の講習に生かしたい。

【参考文献】

- 1) 文部科学省ホームページ
- 2) 農林水産省ホームページ
- 3) ファイザー株式会社：エビペンガイドブック

